

Ⅲ 主な出来事

○R6／7期のさとうきびの収穫・製糖が終了

4月18日にR6／7期の収穫および製糖が終了した。7～8月の干ばつの影響により生産量が減少することが懸念されていたが、初期生育が良好であったことや散水等により、単収の低下がなく、当初見込みを約1万t上回る17.1万tの生産量となった。品質は、登熟期の高温、降雨、日照不足により低糖度のスタートとなったが、後半は平年並みの糖度となった。また、2月以降は収穫・製糖と並行して、春植えや株出し管理等、来期を見据えた作業が始まっている。

○「畑かんマイスター」令和7年度の活動始動

5月23日に伊仙町にて徳之島地域畑かんマイスター連携会議の総会が開催された。畑かんマイスターは、畑地かんがいを利用した先駆的な営農を実践している農業者で、3町5人ずつの15人が委嘱されており、畑かん営農の実践活動や行政への提言、地域における助言活動等を展開している。今年度の活動について、マイスターから「実践活動や県内外の事例調査、地域農業者への助言・周知活動等を通じて、畑かん営農の伝道師として徳之島農業の発展に寄与したい」との声があった。

○パッションフルーツの共販量2tを目指す

6月12日に天城町にて、JAあまみ徳之島地区果樹部会主催のパッションフルーツ収穫式が開催され、生産者・関係者計27人が参加し、目標達成に向けた意思統一が図られた。今年度産の単収は、前年12月以降の低温の影響により生産者間でばらつきがあるものの、一部で単収向上につながる新たな整枝方法が導入されており、前年度産並の共販量2t、販売単価1,300円/kg、販売金額2,600千円を目指している。

○関係機関で新規就農者を励ます

6月20日に天城町にて、新規就農者励ましの会を開催し、新規就農者、関係機関等計34人が参加した。今年度の対象者は、天城町4人、伊仙町1人の計5人で、ピタヤとうもろこし、さつまいも、さとうきび、しょうが、トルコギキョウ等の生産に取り組む。新規就農者からは収入の安定化や農産物加工への意欲など、それぞれの抱負が語られた。当課では、引き続き関係機関や指導農業士会、農業青年クラブ等関係団体と連携し、新規就農者を支援していく。

○令和6年度産トルコギキョウの出荷終了，次作に向けた対策が必要

令和6年度産の徳之島トルコギキョウ組合の出荷が6月4日に終了した。当組合では新規就農者1戸を含む5戸の生産者が1月～6月に出荷を行っている。今年度は定植時の高温による生理障害や有害センチュウ等の病害虫被害，花芽分化期の低温の影響による開花遅延が発生し，出荷量は昨年度と比較して42%減少した。また，出荷時期によって単価の変動が大きく，販売面でも厳しい状況が続いた。当課では，今後次作に向けた土壌消毒等の技術習得を支援していく。

○県内の女性農業経営士が徳之島に集合

7月10日～11日に徳之島にて，令和7年度県農村女性リーダーネットワーク先進地研修が開催され，県内の女性農業経営士63人を含む延べ76人が参加した。研修では，徳之島地区の女性農業経営士（参画21とくのしま）が島内を案内し，会員が生産する茶や生産牛のほか，ピタヤ，コーヒー等の視察を行った。また，交流会では各地域の活動紹介を行い，組織運営のあり方や海外研修への要望が挙げられたほか，研修を通して女性農業経営士としての活動意欲が向上したとの声が挙げられた。

○新規就農者が指導農業士から就農や経営に関する助言をもらう

7月17日に徳之島事務所にて，就農5年以内の就農者を対象に第2回農業基礎講座を実施し，12人が参加した。今回は，農業経営の基礎，先輩農業者による講話，認定新規就農者制度についての講義を実施した。先輩農業者講話では指導農業士を講師に迎え，就農から現在に至るまでの経緯や4Hクラブでの活動，経営安定に必要な取組についての助言がなされた。当課では，引き続き指導農業士と連携を図りながら，新規就農者の支援に取り組む。

○糖蜜を利用した土壌還元消毒を検討

8月8日に天城町トルコギキョウ生産者ほ場にて，地域の未利用資源である糖蜜を利用した土壌還元消毒を行った。当地域では，有害センチュウや土壌伝染性病害による被害が問題となっており，これまで焼酎かすを利用した土壌還元消毒に取り組んできた。しかし，焼酎かすの散布や湛水後のビニル被覆は労力負担が大きい。そこで，今回は糖蜜を希釈し液肥混入機で散布する方法を検討した。今後は，生育，労力，消毒効果，コストを慣行と比較し，評価する予定である。

○冬季の粗飼料不足解消と飼料コスト低減へ エコハカマ回収利用実演会開催

9月8日に天城町農業青年クラブ主催のもと、天城町瀬滝のさとうきびほ場にて、夏植え苗の採苗に合わせてハカマを回収し、生産牛に給与する実演会を開催し、生産者と関係者計27人が参加した。昨年、伊仙町で3戸の農家で、モデル組織を立ち上げ、約17tのハカマを給与し、牛の採食性が良好で飼料コストが低減できたことから、新たな組織の設立を目指して開催した。当日はハーベスターとローダーや1tトラックの併走回収を行った後、牛舎に移動し生産牛の採食状況を確認した。今後も新たな組織の設立に向けて支援を継続する。

○新規就農者及びさとうきび生産者が農作業安全の基礎について学ぶ

9月16日に農業開発総合センター徳之島支場にて、新規就農者やさとうきび生産者等を対象とした農作業安全に関する農業基礎講座を開催し、計81人が参加した。県内の農作業事故の発生状況や事故防止策等の説明後、トラクター及び刈り払い機の保守管理方法について、説明を受けながら受講者が操作を行った。今回は新規就農者からベテラン農家まで対象が幅広く、基本に立ち返ることを目的とした内容となった。特に就農年数の浅い生産者からは積極的に質問があり、より理解が深まったと思われる。

○ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種「しまあかり」栽培面積拡大へ

10月17日及び20日にJAあまみ徳之島・天城事業本部にて、「しまあかり」栽培者に対する説明会を実施した。昨年度の本品種栽培者は16人で栽培面積は約30aであり、調査で得られたデータを用いた啓発活動を行った結果、本品種に対する理解が進み、本年度は37人で約4haの栽培が行われることとなった。なお、37人のうち14人は昨年度に引き続き栽培する農家で、全員が栽培面積を拡大する。本年度は、11月中旬頃から植付けが開始されるが、全ての圃場を展示場として活用し、さらなる周知を図る計画である。

○畑かんマイスターによる事例発表で畑かんを利用した営農を推進

10月29～30日に伊仙町にて、経営技術課主催の県畑かん営農推進大会が開催され、伊仙町の畑かんマイスターが事例発表を行った。発表では畑かん水の利用により、飼料作物の生育促進や、収穫回数の増加につながり、収量が向上して生産牛頭数を計画的に増頭できたこと、また子牛への自給粗飼料利用によりコスト低減が図られ、経営改善につながっていることが報告された。当課では、引き続き畑かん水を利用した営農による生産者の経営改善を支援する。

○面縄小学校の小学生，畑かんとサトウキビについて学ぶ

11月4日に伊仙町面縄小学校にて，小学5年生21人を対象に出前授業を行った。授業では，畑かん営農とさとうきびの栽培などについてを説明し，徳之島の農業の特徴や水の必要性，徳之島におけるさとうきびの地域農業に占める割合，栽培管理と砂糖ができるまでの行程などを3m近い夏植の3品種を持参して説明した。質疑をする時間は無かったが，後日，小学校から生徒の感想が届き，農業への理解が深まったようであった。

○青年農業者会議にて経営改善の取組や成果を発表

11月28日に徳之島事務所大会議室にて，徳之島地区青年農業者会議を開催し，農業者・関係者計26人が出席した。会議では意見発表1件，プロジェクト発表2件，研修報告等2件があり，5人の青年農業者が発表・報告を行った。プロジェクト発表は2件とも繁殖牛農家が行い，繁殖成績の改善やコスト低減などについて取り組んだ内容と得られた成果の発表があった。発表後には，参加者からの質問や指導農業士による助言があり，有意義な会議となった。

○さとうきびの操業が昨期より10日早く始まる

さとうきびの原料受け入れが昨年より10日早い12月10日から始まった。甘しゃ糖度は12.31度（前期12.25度）と昨年よりは高いものの，やや低めの糖度である。今期は4～5月は低温，6月までは干ばつ傾向で，一部ではバッタによる食害が見られたために単収低下が懸念されたが，8月以降は，台風による影響も少なく天候に恵まれ，生産量は18万2500tと，昨期を1万t近く上回る見込みである。

○地域営農を支える農機具やビニールハウスの再利用の仕組みづくりを支援

徳之島地域総合営農推進本部担い手部会では，新規就農者等を対象に空きハウスや中古農業機械幹旋の検討を進めており，今回，畑かんプロジェクトチーム会の協力を得て，畑かん受益地内作付け調査で空きハウスの把握を行うことになった。また，同取組に先駆けて，天城町では利用していない農機具やビニールハウス，農業資材などを町内の農家や法人が再利用できる取組として「天城町農機具等マッチング事業」を開始しており，コスト低減と資源の有効活用により地域営農を支える仕組みが動き始めている。

○落花生「おおまさりネオ」は、ばれいしょの堀取機で収穫できる！？

落花生はばれいしょの裏作で栽培可能な品目であり、関係機関一体となって、誰もが栽培に取り組みやすい体系の構築に向けた検討を進めている。その一環として、12月23日に伊仙町農業支援センターのほ場にて、ばれいしょ堀取機を活用した収穫作業の実演・検討会が開催され、生産者及び関係者計39人が参加した。供試品種は「おおまさりネオ」で、草姿がコンパクトであったことから、実用可能な結果となった。参加者からの評価も非常に良く、今後の普及拡大に期待が持てる検討会となった。

○継続した啓発活動により、「しまあかり」普及に向けて万全を期す

1月7～8日に徳之島町、天城町、伊仙町のほ場にて、「しまあかり」現地検討会が開催され、生産者・関係者計92人が参加した。会では、ほ場主による現在の生育状況や栽培の留意点などの説明に対し、質疑応答が交わされるなど生産者の意欲向上が垣間見えた。本年産における本品種の生産者は39人にのぼり、本格的な普及が始まっている。園振協徳之島支部では、より多くの生産者が本品種に触れられるよう、全生産者のほ場に啓発用のぼり旗を立てている。現地検討会での啓発と併せて、さらなる理解の向上が期待される。

○メロン青年勉強会組織が1年目の活動を終える

天城町の研修施設卒業生を中心に、令和7年3月から会員8人で本格始動したメロン青年勉強会組織は、座学9回、現地検討会3回の計12回の研修を実施し、12月19日の第12回勉強会及び反省会をもって1年目の活動を終了した。会員からは、「互いのほ場の行き来や意見交換の機会が格段に増えた」「初めて知ったことが多く勉強になった」などの声が聞かれるなど好評で、来年も活動を継続していくこととなった。

○徳之島の地域農業を担うリーダーが新たに誕生！

2月3日に県庁にて、県指導農業士、県女性農業経営士、県青年農業士の認定証交付式があった。今回、指導農業士に天城町の貞山博一氏、女性農業経営士に徳之島町の嘉山杏奈氏、青年農業士に天城町の吉川勝也氏が認定された。式では、知事による認定証交付のあと、各農業士の代表者が決意表明を行った。女性農業経営士代表として、嘉山氏が登壇し、農業・農村を牽引する担い手の一人としての意欲と決意を述べた。それぞれの立場で、徳之島地域のリーダーとして、今後の活躍が期待される。